

実践報告 SAGA GAYA Museum（サガ・ガヤ・ミュージアム） —話したり、笑ったり、思わず声をあげたりしながら、自由な雰囲気の中 中で芸術作品を楽しむ時間—

浦川 和也

はじめに

佐賀県立美術館では、令和5年（2023年）9月6日～10月29日の会期で開催した40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」（以下「池田龍雄展」という。）の中で、9月15日（金）・16日（土）・17日（日）・19日（火／休館日）に「SAGA GAYA Museum（サガ・ガヤ・ミュージアム）」を試行的に実施した。

本館でも、「美術館」という施設の特性上、「静かな環境の中で芸術を鑑賞することが当然」といった潜在意識が、館職員にも来館者にもあることを、職場内の日頃の何気ない会話の中で再確認していた。しかしながら、この潜在意識があるために、美術館来館に障壁を感じる方々が数多くおられるということも、今年改めて認識する出来事があった。

佐賀県では、お年寄りや障がいのある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支えあって心地よく過ごせる、佐賀らしいやさしさのカタチを「さがすたいる」と名付けて、それぞれの場面で「さがすたいる」を意識した設備・手法・雰囲気づくりなどを広める取組を進めている。

この「さがすたいる」の理念を本館の中で実現する取組の1つとして、「SAGA GAYA Museum」と事業名を名付け、「話したり、笑ったり、思わず声をあげたりしながら、自由な雰囲気の中で芸術作品を楽しむ時間」を特別展会期中に設定して、実施することとした。

本稿では、この「SAGA GAYA Museum」を

行うきっかけや検討過程、実施内容、来館者・関係者等の評価などについて実践状況を報告し、今後の取組継続の基礎資料としたい。

なお、本稿では、資料引用箇所や解説部分等に傍線があるが、これは、筆者が行論の都合上適宜付したものである。

1 SAGA GAYA Museum（サガ・ガヤ・ミュージアム）実施のきっかけ

令和5年6月、佐賀県内在住の方から障がいのための特別な鑑賞時間を土曜日や日曜日に設けてほしいとの御意見が寄せられた（【資料1】）。

【資料1】

私の20歳になる息子は知的障がいがあり、慣れない場所では興奮して静かに出来ません。なので、今まで美術館や博物館に行けませんでした。

でも、本当に美しいもの、素晴らしいものに触れて欲しくて美術館や博物館に連れて行きたいです。イベント期間中の土曜日か日曜日に2～3時間でいいので、障がい者が利用し易い時間を設けてもらえないでしょうか。

この御意見を受けて、県外も含めた先進的な取組⁽¹⁾等も確認しながら検討を進めたうえで、本館では「障がい者が利用し易い（特別な）時間」を設けること（枠を設けること）により、「障がいのある方がかえってそれ以外の時間帯

に観覧しづらくなるのではないか」という点と、「観覧に不安を感じられる場合は職員がアテンドするので気軽にお声がけいただきたい（個別におもてなしする）」という基本的な考え方を、御意見をいただいた方に伝えた⁽²⁾。この本館からの回答に対し、御意見をいただいた方からの再度の連絡は無かった。

その後、池田龍雄展を準備していく中で、8月に至り、筆者の私的な時間の中で強度行動障害に関する報道を見た際に、6月に回答した内容では御意見をいただいた方の要望に何ら応えていないことに気付かされた。障がいのある方々の様々な個性に思いが至らず、自らのイメージの中だけで考えていた筆者自身の不明と無知を恥じた。

そこで、特別な鑑賞時間について再度検討する必要性を感じ、所属長に相談して、改めて企画を練ることとした。

2 SAGA GAYA Museum実施の検討と準備過程

(1) 素案作成

素案を練る段階で、筆者が最も留意したのは、取組のターゲット、ネーミング、実施する時間帯、伝え方の4点だった。

ア ターゲットをどうするか

前述のようなきっかけもあり、障がいのある方とその介助者・同行者のみをターゲットとすることも考えられたが、筆者自身、子ども連れの親が様々な場面で如何に周囲の目を気にする必要に迫られるかという点を以前から感じていた（ここでの「親」は、拙宅では殆どの場合筆者（父親）は含まず、「=母親」であったことを後悔している）。

本館で「縄文アラカシ」⁽³⁾に因んで、平成18年（2006年）から年3回程度開催している「あらかしコンサート」⁽⁴⁾は、気軽に参加できる無



【資料2】池田龍雄展チラシ

料コンサートとして、基本的には「アラカシ広場」などの屋外を会場としてきた。筆者も平成21～24年（2009～12年）の4年間、担当者や担当係長として、あらかしコンサートの企画・運営に携わった。屋外でのコンサートということもあり、小さな子ども連れの女性を多く目にしたが、その一方で、お客様から「子どもの声がうるさかった」などの声をいただくこともあった。このような周囲からのいわゆる「冷たい視線」⁽⁵⁾に対して、館としては「お子様連れの御家族などが気軽に参加いただけるコンサートでもあるため、皆様には御理解いただきたい」旨のアナウンスを司会が行うようにした。

コンサートだから音楽に関係のない音や動きは鑑賞環境にとってよくないことは、筆者も十分に理解している。しかしながら、気軽に参加できる無料の屋外コンサートで、普段コンサートなどに障壁を感じておられる子ども連れの親御さんにも是非参加していただきたいという思いから、周囲のお客様からの「冷たい視線」が発生することをできるだけ避けたかったのである。

このような事例も含め、佐賀県立美術館は、美術や工芸、音楽、舞台など様々な芸術を鑑賞する場であり、周囲の方々の鑑賞の邪魔にならないようにすること（≒静かにすること）が来館者のマナーではあることは間違いない。しかし、あくまでマナーであって、それができないからと言って鑑賞が禁じられているわけではない。一方で、その「マナー」や、それを守れない場合の館職員や周囲のお客様からの「冷たい視線」は、障がいのある方だけではなく、子ども連れの親御さんなどにとっても、美術館来館の大きな障壁となっているのである。

佐賀県が推進している「さがすたいる」の取組では、「お年寄りや障がいのある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支えあって心

地よく過ごせる」ことを目指しているわけであり、従って、今回の取組のターゲットについては、障がいのある方とその介助者・同行者に特化せず、日頃美術館来館に障壁を感じておられる子ども連れの親御さんなども含めて、様々な方々をターゲットにすることが妥当であると考えた。

イ ネーミングをどうするか

ターゲットを様々な特性のある方々に広げる前提で事業内容を考えることとしたため、前述の先進事例にある「障がい者のための特別鑑賞会」等の言い回しは使わないこととした。

興奮して思わず声をあげてしまう方々が目立たず、周囲に溶け込むためには、「ガヤガヤ」という雰囲気を作ればいいのかと考え、最初に「ガヤガヤ・ミュージアム」「GAYA GAYA Museum」などの名称を思い付いた。

「ガヤ」とは、weblio辞書『実用日本語表現辞典』では、「主にバラエティ番組などにおいて、メインの出演者の周囲で声を出すなどして場を盛り上げる役割の人を指す語」とされており、そのような役回りの芸人を「ガヤ芸人」ということもある。また、ESPエンタテインメント東京の業界用語集では「街中の雑踏や学校内の音など、ガヤガヤした効果音のこと」とある。つまり、「ガヤ」という言葉は、今回の事業イメージには親和性が高いものと考えられる。

ただ、当初案の「ガヤガヤ・ミュージアム」では、「さがすたいる」を推進している佐賀県の文化施設である佐賀県立美術館で実施するというイメージがわからないため、「さが」「サガ」「佐賀」「SAGA」などを名称に組み合わせたらどうかと考え、「SAGA GAYA Museum」に修正してみた。「SAGA GAYA」の部分の母音がすべてAとなっており、名称を目で見ても面白味があるのではないかと考えた。しかし、一見して読めるかどうかとも気になるため、資料の最

初に登場する場合は「SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)」とカタカナ読みを送ることとした。

ウ 実施する時間帯をどうするか

先進事例の他館の「障がい者のため特別鑑賞会」では、休館日の臨時開館ということで、時間を設定される場合が多かった。

しかし、今回のきっかけとなった御意見（【資料1】）には、「土曜日から日曜日に2～3時間でいい」と、土日（＝開館日）と具体的に書かれていたので、おそらく障がいのある方を連れていく際に、介助者・同行者が時間を取りやすいのが土曜日や日曜日というケースも多いのではないかと感じた。

今回の取組は試行的実施で了解されているので、データをしっかりとる意味でも、いくらかの選択肢を作っておくべきではないかと考え、次の4つの時間帯を素案とした。なお、本館の通常の開館時間帯は9:30～18:00で、休館日は月曜日（休日の場合はその翌日）である。

- 9月15日（金）18:00～20:00……開館時間延長
- 9月16日（土）9:30～12:00……土曜日の午前中／通常の開館時間中
- 9月17日（日）16:00～18:00……日曜日の夕方／通常の開館時間中
- 9月19日（火）13:00～17:00……休館日の臨時開館

エ 伝え方をどうするか

今回の取組で、最も重要な要素の1つは、SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム) 開催について、障がいのある方や子ども連れの親御さんはもちろん、美術館に来館されるすべての方々に如何に伝えていくかである。

そこで、重要となるのが、事業趣旨について発信する基本媒体・公式資料である「プレスリリース」である。今回は、素案検討の段階から

プレスリリースにどう書いていくかを軸に進めることとした。

作成したプレスリリース素案は、【資料3】のとおりである。

プレスリリース素案の最も大きな特徴は、タイトルの次の前文の冒頭である。まず、「ピーンと静まりかえった息の詰まるような空間が苦手で、芸術鑑賞は好きだけど、美術館に足が向かなかつたという方はいませんか？ 親子連れで美術館に行った時に子どもが興奮して、会場をすぐに出てしまった経験はありませんか？」と、障がいのある方や子ども連れの親御さんなどを想定して困った経験が無いかを尋ね、「美術館は『静かな場所』というイメージもありますが、家族や友人と大声で話し合ったり、笑ったりしながら芸術作品を鑑賞することができたら、楽しいと思いませんか？」と、静かにしないでよい鑑賞スタイルもあるのではないかという提案文・呼びかけ文を続けた。

このような前文の後に、SAGA GAYA Museumの実施内容について記したうえで、末尾の「4 その他」の欄に、「県立博物館・県立美術館では、日頃から、観覧に御心配を感じられる場合などは、個別に対応させていただいていますので、お気軽に館スタッフにお声かけください」という文章を添えた。これは、冒頭で紹介した【資料1】の御意見をいただいた方に対して本館が最初に回答した内容に重なる。「お年寄りや障がいのある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支えあって心地よく過ごせる」という「さがすたいる」の理念に基づいた「すべての方々を歓迎し、お客様の状況に応じて必要な場合は個別にアテンドする」という本館の基本的な考え方を併記したのである。様々な特性のある方々を自然に受け入れ、誰もが楽しめる状態を目指すことに取り組んでこそ、周囲の方々の理解が醸成されるのではないかと考える。

【資料3】プレスリリース素案	【資料4】令和5年8月23日に発出したプレスリリース
<p>県立美術館で「SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)」を開催します</p> <p>ピーンと静まりかえった息の詰まるような空間が苦手で、芸術鑑賞は好きだけど、美術館に足が向かなかったという方はいませんか？ 親子連れで美術館に行った時に子どもが興奮して、会場をすぐに出てしまった経験はありませんか？</p> <p>美術館は「静かな場所」というイメージもありますが、家族や友人と大声で話し合ったり、笑ったりしながら芸術作品を鑑賞することができたら、楽しいと思いませんか？</p> <p>県立美術館では、そんな思いをお持ちの方が、思いっきり声をあげて鑑賞できる機会として、40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」の中で、「SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)」を下記のとおり開催します。</p> <p><u>どうぞ御来場ください。</u></p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 イベント名 SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)</p> <p>2 イベントの趣旨 話したり、笑ったりしながら、<u>ガヤガヤした雰囲気</u>の中で、芸術作品を鑑賞する時間で、家族や友人、館スタッフと楽しい時間を過ごす試み。</p> <p>3 開催の内容 (1) 日時 令和5年9月15日(金) 18:00～20:00 【開館時間の延長】 9月16日(土) 9:30～12:00 9月17日(日) 16:00～18:00 9月19日(火) 13:00～17:00 【休館日の臨時開館】</p> <p>(2) 展覧会 佐賀県立美術館40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」</p> <p>(3) 観覧料 <u>上記特別展の入場には、次の観覧料が必要です。</u> 一般 1,000円、割引料金 800円 ※ 高校生以下、障害者手帳又は指定難病医療受給者証の所持者とその介助者1名は無料。 ※ 割引料金は20名以上の団体、博・美メール会員、学生証(大学・専門学校等)提示の学生、本特別展の使用済み半券提示の方、17時以降入場の方に適用。</p> <p>(4) 同時開催 <u>「SAGA GAYA Museum」は、OKADA-ROOM (美術館常設展示) でも同時開催します(観覧料無料)。</u></p> <p>4 その他 県立博物館・県立美術館では、日頃から、観覧に御心配を感じられる場合などは、個別に対応させていただいていますので、お気軽に館スタッフにお声かけください。</p>	<p>佐賀県立美術館で「SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)」を開催します</p> <p>ピーンと静まりかえった息の詰まるような空間が苦手で、芸術鑑賞は好きだけど、美術館に足が向かなかったという方はいませんか？ 親子連れで美術館に行った時に子どもが興奮し、<u>周りの人の目が気になって</u>、会場をすぐに出てしまった経験はありませんか？</p> <p>美術館は「静かな場所」というイメージもありますが、家族や友人、<u>親しい方々</u>と大声で話し合ったり、笑ったりしながら芸術作品を鑑賞することができたら、楽しいと思いませんか？</p> <p>佐賀県立美術館では、そんな思いをお持ちの方が、思いっきり声をあげて鑑賞できる機会として、40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」の中で、「SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)」を下記のとおり開催します。</p> <p>皆様の御来場お待ちしております。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 イベントの趣旨 話したり、笑ったり、<u>思わず声をあげたりしながら、自由な雰囲気</u>の中で、芸術作品を鑑賞する時間で、家族や友人、館スタッフと楽しいひと時を過ごす試みです。 <u>子どもからお年寄りまで、障がいの有無などに関わらず、どなたでも安心して御来場ください。</u></p> <p>2 開催内容 (1) 日時 令和5年9月15日(金曜日)18時～20時 【開館時間の延長】 9月16日(土曜日)9時30分～12時 9月17日(日曜日)15時～18時 9月19日(火曜日)13時～17時 【休館日の臨時開館】</p> <p>(2) 観覧料 <u>佐賀県立美術館40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」の入場には、次の観覧料が必要です。</u> 一般 1,000円、割引料金 800円 ※ 高校生以下、障害者手帳又は指定難病医療受給者証の所持者とその介助者1名は無料。 ※ 割引料金は20名以上の団体、博・美メール会員、学生証(大学・専門学校等)提示の学生、本特別展の使用済み半券提示の方、17時以降入場の方に適用。</p> <p>(3) 同時開催 <u>「SAGA GAYA Museum」は、OKADA-ROOM (美術館常設展示) でも同時開催します(観覧料無料)。</u></p> <p>3 その他 <u>佐賀県では、お年寄りや障がいのある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支えあって心地よく過ごせる、佐賀らしいやさしさのカタチ「さがすたいる」を広める取組を進めています。</u> 県立博物館・県立美術館でも、日頃から、観覧に御心配を感じられる場合などは、個別に対応させていただいていますので、お気軽に館スタッフにお声かけください。</p>

※後に修正される箇所に傍線を付した。

※原案【資料3】から修正された箇所に傍線を付した。

「冷たい視線」から「温かいまなざし」に変えていく取組も必要なのである。

「特別な鑑賞時間」の設定と、「すべての方々を歓迎し、お客様の状況に応じて必要な場合は個別にアテンドする」考え方とは、一見して相反する方向性のようなのだが、筆者としては両方必要なのではないかと考えている。

このような思いを込めて、障がいのある方とその介助者・同行者、子ども連れの親御さんなど美術館来館に障壁を感じられている方々や、芸術に浸り楽しみたいと思って美術館に来館される方々（周囲の方々）に直接呼びかける文章となるプレスリリースの素案を作成した。

(2) 内容の検討及び関係者からの意見聴取

プレスリリース素案（【資料3】）をもとに館内で検討したところ、

- このような内容で問題が無いのか、「さがすたいる」の推進に取り組んでいる県民協働課や、障がい者関係の福祉事業所の方々に相談すること
- 一般観覧者に対する告知や配慮をどうしたらよいのか考えること

などの意見や指示があった。

そこで、8月9日に県民協働課、同16日に社会福祉法人はる理事長福島龍三郎氏にプレスリリース素案（【資料3】）を説明して御意見を求め、次のような助言と指摘をいただいた。

- 全体の趣旨としては概ねよいと思う。
このような特別な鑑賞時間を設定していただけるのはありがたい。
- プレスリリース素案の中には、料金設定部分以外のところでは、「障がい者」「障がいのある方」などが一切書かれていない。このリリースを見ても、当事者は、自分たちも行ってよいのか、行っても困らないのか、どうか分からない。例えば、他の行事では、「子どもからお年

寄りまで、障がいの有無などに関わらず、どなたでも安心して御来場ください」などの文言がどこかに書かれていて、それを目印にされる方が多い。

- 「2イベントの趣旨」の中にある「ガヤガヤした雰囲気の中で」の部分については、「自由な雰囲気の中で」の方がよい。障がいの特性によっては、ガヤガヤした雰囲気では落ち着かない人も多い。
- 上記のため、一般的には、BGMは無い方がよいかもしれない。ただ、障がい者には様々な特性があり、一様には語る事ができない。会場の雰囲気にもよる。試行的に実施するのなら、BGMを流す日もあってよいかもしれない。
- 障がい者は、一般的に生活時間帯のパターンが固定化していることが多く、夜の時間の利用は殆ど無いだろう。
- プレスリリースの内容以外でも、近年公共施設等で「カームダウン・クールダウンスペース」（興奮した際に落ち着かせる場所）を設置されているケースがみられるので参考にされたい。

「特別な鑑賞時間を設定していただけるのはありがたい」という当事者や関係者の生の声をいただき、SAGA GAYA Museumの事業の方向性は間違っていないことがわかった。ディテールは準備を進めながら詰めることとして、まずは、本館を所管する文化・観光局の了解を得て、SAGA GAYA Museumを実施するよう決定した。

(3) プレスリリースの発出と広報

前節の経過を経て、8月23日に【資料4】のプレスリリースを発出した。

【資料3】と比較して基本的な考え方や内容に変化は無いが、具体的な記述として次の点を変更した。

- 周囲の方々の「冷たい視線」が美術館

来館の障壁になることをより明確にする目的で、前文の親子連れのところ、「周りの人の目が気になって」を挿入した。

- 前文2段落目で、一緒に楽しむ対象として、「家族や友人」に加えて「親しい方々」を挿入した。
- 「イベントの趣旨」の項目で、「話したり、笑ったり」の次に、「思わず声をあげたりしながら」を加えた。障がいのある方や子どもの中には（大人も時にはそうだが）特性によっては、興奮を抑えきれず、「思わず」声や動きが出ることがある。その部分をフォローした。また、前節の御意見を受けて、「ガヤガヤした雰囲気」を「自由な雰囲気」に変えた。

- 前節の御意見を受けて、「子どもからお年寄りまで、障がいの有無などに関わらず、どなたでも安心して御来場ください」をイベントの趣旨の欄に追記した。
- 9月17日（日）の実施時間を16時～18時の2時間から、15時～18時の3時間に拡大した。また、前節の御意見では、夜の時間帯の利用は無いだろうとのことだったが、試行的実施のため、データを得る意味でも、15日（金）18時～20時の枠はそのまま維持した。
- 「その他」のすべての方々を歓迎し、お客様の状況に応じて必要な場合は個別にアテンドする考えを記した文の上に、



WHAT?

SAGA GAYA Museum

(サガ・ガヤ・ミュージアム)



WHAT?

話したり、笑ったり、思わず声をあげたりしながら、自由な雰囲気の中で、芸術作品を楽しむ時間で、家族や友人、館スタッフと楽しいひと時を過ごす試みです。

子どもからお年寄りまで、障がいの有無などに関わらず、どなたでも安心して御来場ください。

ピーンと静まりかえった息の詰まるような空間が苦手な、芸術鑑賞は好きだけど、美術館に足が向かなかったという方はいませんか？

親子連れで美術館に行った時に子どもが興奮し、周りの人の目が気になって、会場をすぐに出てしまった経験はありませんか？

美術館は「静かな場所」というイメージもありますが、家族や友人、親しい方々と大声で話し合ったり、笑ったりしながら芸術作品を鑑賞することができたら、楽しいと思いませんか？

県立美術館では、そんな思いをお持ちの方が、思いっきり声をあげて鑑賞できる機会として、40周年特別展「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」の中で、「SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム)」を開催します。

【日時】
令和5年 9月15日(金)18:00～20:00
(開館時間の延長)
9月16日(土) 9:30～12:00
9月17日(日)15:00～18:00
9月19日(火)13:00～17:00
(休館日の臨時開館)

【展覧会】
佐賀県立美術館40周年特別展
「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」
観覧料 一般 1,000円、割引料金 800円
※ 高校生以下、障害者手帳又は指定難病医療受給者証の所持者とその介助者1名は無料。
※ 割引料金は20名以上の団体、博・美メール会員、学生証(大学・専門学校等)提示の学生、本特別展の使用済み半券提示の方、17時以降入場の方に適用。

OKADA-ROOM(美術館常設展示)
こちらは観覧無料

【主催・お問合せ先】



佐賀県立美術館

SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

〒840-0041
佐賀市城内1丁目15-23
TEL.0952-24-3947
FAX.0952-25-7006
<https://saga-museum.jp/museum/>



佐賀県

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

【資料5】SAGA GAYA Museumのチラシ

佐賀県が取り組む「さがすたいる」の推進に関する文言を追加した。

以上が主な変更点で、その他は、佐賀県庁のプレスリリース基準や、「てにおは」・語順を精査するなどの審査を経た。

次にプレスリリースとあわせて、一般に広く普及するために、チラシ(手作り)を作成した(【資料5】)。

チラシやプレスリリースの配布・普及に当たっては、県民協働課、社会福祉法人はる、マルツナガル瀬戸口庸子氏他多くの方々に協力いただいた。また、SEI-NETにより佐賀県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等に

もプレスリリースとチラシを送付した。

(4) サガ・ガヤ・ミュージアム業務委託— スタッフの増員とカームダウン・クール ダウンスペースの設置—

SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム) 実施の検討段階で、技術的に心配される点として、通常の公開状態よりも展示資料の安全確保に注意を払う必要があることが挙がっていた。そのため、池田龍雄展では、通常は美術館2号・3号・4号展示室に各2名ずつ案内・監視スタッフを配置する形としていたが、SAGA GAYA Museumの時間帯は、各部屋1名ずつ増員することとした(OKADA-ROOMも2名体制となるようにした)。

また、カームダウン・クールダウンスペースの設置は、展示造作の一部として追加発注することとした。

そこで、【資料6】の業務内容を、池田龍雄展の広報・運営等業務委託を受注している特別展「池田龍雄」共同事業体に、「サガ・ガヤ・ミュージアム業務委託」として追加発注するこ

ととした。

(5) 展示室内でのソファの設置の提案— PICFA施設長原田啓之氏—

SAGA GAYA Museumの実施に向けた準備を進めていた時期に、佐賀県立美術館と隣接して一体的な運営をしている佐賀県立博物館では、8月24日～10月12日の会期で「関係するアート展vol.3」(佐賀県(文化課)主催)が開催されていた。令和3年の第1回から関係するアート展のアートディレクターを務めている医療法人清明会障害福祉サービス事業所PICFAの施設長原田啓之氏は、同展の中で、株式会社東馬の協賛(無償貸与)を受けて、上質なソファを展示室内に配置されていた。

原田氏によれば、カームダウン・クールダウンの1つの手法として展示室内にソファを配置しているとのことだった。作品の前や展示室の壁際などに、大中小様々なソファが置かれている。一旦展示室を出て、仕切ったカームダウン・クールダウンスペースに入るよりも、展示室内の見通せるところにあるソファの方が、付添い

【資料6】サガ・ガヤ・ミュージアム業務委託の業務内容

ア 池田龍雄展開催に際し、特別展「池田龍雄」運営・広報等業務委託で配置する受付・監視スタッフに加えて次表のスタッフを追加配置する。

日 時	配置済	新規追加	計
9月15日(金) 18時～20時	—	9人+4人+1人(2時間×14人=28時間)	14人
9月16日(土) 9時30分～12時	9人	4人(2時間30分×4人=10時間)	13人
9月17日(日) 15時～18時	9人	4人(3時間×4人=12時間)	13人
9月19日(火) 13時～17時	—	9人+4人+1人(4時間×14人=56時間)	14人
		延べ36人(延べ106時間)	

イ 上記の各時間帯の開始時、終了時及び1時間ごとに館内放送を入れる(上記追加スタッフの対応)。

ウ 池田龍雄展の開会日前日及び会期中(令和5年9月5日～10月29日)の「カームダウン・エリア」の仮設壁の設置及び撤去。

※ 仮設壁 灰色あるいは紺色の間仕切り壁でL型。高さ210cm×幅180cm×2。

サイン内容

カームダウン・クールダウン スペース

Calm down, cool down space

この場所は、気持ちを静めるためのスペースです。みなさまの御配慮をお願いいたします。

者は安心できるとのことだ。ソファは、他の観覧者と視線が交差しないように作品や壁に向かっておかれている。

池田龍雄展でSAGA GAYA Museumの実施と、カームダウン・クールダウンスペースの設置を行うことを伝え、その利用や情報発信について協力を求めたところ、ソファの利用について提案され、株式会社東馬の代表取締役社長東島眞介氏を御紹介いただいた。東島氏も実際に池田龍雄展の展示状況を視察いただき、ソファ3台と椅子2脚を池田龍雄展の会期中無償貸与していただくこととなった。

3 SAGA GAYA Museumの実施内容

(1) 告知看板の設置

前章の検討・準備を経て、9月5日(火)に池田龍雄展のオープニングセレモニーを行い、6日(水)に正式に開会した。開会翌週の週末前後となる9月15日(金)、16日(土)、17日(日)、



【資料7】 実施前及び実施期間中のSAGA GAYA Museumの告知

19日(火)に予定どおりSAGA GAYA Museumを実施した。

実施前及び実施期間（開催中以外の時間）には、【資料7】の「お知らせ」の看板を、池田龍雄展とOKADA-ROOMの入口に設置した。まさに、SAGA GAYA Museumを開催している時間中は、【資料8】の「只今開催中！」の看板を同じ場所に設置した。【資料9】は、池田龍雄展入口におけるSAGA GAYA Museum告知看板の設置状況である。

(2) カームダウン・クールダウンスペースと展示室内のソファ

池田龍雄展の全会期中、展示会場出口の横に【資料10】のとおりカームダウン・クールダウンスペースを設置した。グレー地の仕切り版に「カームダウン・クールダウンスペース Calm down, cool down space この場所は、気持ちを静めるためのスペースです。みなさまの御配慮をお願いいたします」と表示し、内側に椅子



【資料8】 SAGA GAYA Museum開催中の告知



【資料9】SAGA GAYA Museum開催中の告知看板の設置状況

を2脚設置した。

また、原田氏の提案により、株式会社東馬の協賛を受けて、展示会場内の3か所にソファを設置した（【資料11】）。

カームダウン・クールダウンスペースやソファは、展示会場内外でホッとできるスペースとし



【資料10】カームダウン・クールダウンスペース ※椅子は株式会社東馬協賛。

て、様々な方々に利用されていた。

(3) 来場者の集計とアンケートの実施

SAGA GAYA Museumのすべての実施時間帯の観覧者数は【表1】のとおり129人であった。池田龍雄展自体が低調な観覧者数であったため、SAGA GAYA Museumの時間帯もさほど多くはなかった。

障害者手帳提示の方が9月16日(土)・17日(日)・19日(火)に合わせて14人、介助者の方が16日(土)・17日(日)に合わせて11人来場いただいた。



【資料11】展示会場内でのソファの設置 (株式会社東馬協賛)

【表1】SAGA GAYA Museumの時間帯の観覧者状況

	9月15日(金) 18:00~20:00	9月16日(土) 9:30~12:00	9月17日(日) 15:00~18:00	9月19日(火) 13:00~17:00	計	%
	開館時間延長			休館日臨時開館		
一般1,000円		15	33	5	53	41.1
割引料金800円(団体)		8			8	6.2
〃(博・美メール会員)		1	3		4	3.1
〃(大学・専門学校)				2	2	1.6
〃(17時以降入場者)	4 (+3◎)				7	5.4
〃(使用済半券提示)					0	0.0
高校生以下	1	3	13		17	13.2
招待券		5	4	4	13	10.1
開会式招待状白封筒					0	0.0
障害者手帳		6	7	1	14	10.9
指定難病医療受給者証					0	0.0
障害福祉サービス受給者証					0	0.0
介助者		5	6		11	8.5
計	8	43	66	12	129	

※9月15日(金)の◎は、18時以前に入場し、18~20時の間観覧された方の人数。

夜の時間帯（9月15日(金)18時~20時）については、2（2）の御意見のとおり障害者手帳提示の方はいなかった。しかし、この時間帯には、ベビーカーで赤ちゃんを連れて来られた女性の方が、20時近くまでじっくり御観覧いただいていた。池田龍雄展では実施しなかったが、これまで特別展開催時の金曜日に開館時間を延長する取組を実施したケースもあった（本館では「ナイトミュージアム」という）。このお客様は、仕事が終わった後に保育園で子どもを迎えた後、そのまま御来館いただいたものと考えられる。障がいのある方の利用の時間帯としては想定できないが、美術館来館に障壁を感じておられる方が観覧できる時間帯の1つの選択肢ともなると感じた。

今回御来場いただいた方々全員に池田龍雄展観覧受付にて【資料12】のアンケート用紙を配布した。アンケート用紙の裏面には、【資料5】のSAGA GAYA Museumチラシをモノクロ印刷

し、本事業の趣旨がわかるようにした。

アンケートは129人中53人から回答いただいた（41.1%）。

回答者53人のお住まいは、【表2】のとおり佐賀市が最も多く22人（41.5%）、その他県内（佐賀市以外）15人（28.3%）、九州内（佐賀県以外）12人（22.6%）、九州以外4人（7.5%）だった。佐賀県以外の九州はすべて福岡県だった。

次にアンケートで把握できる観覧者の年齢を【表3】に示した。1人の回答から同行者の年齢を回答いただいたものもあり、合計はアンケート回答数を超えている。【表3】によれば、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代が10%を超えている。池田龍雄展全体でのアンケート集計と比較すると、20歳代の割合が高く、70歳代の割合が低いのが特徴である。SAGA GAYA Museumのターゲットの中心となった障がいのある方とその介助者・同行者や子ども連れの親御さんの

世代から考えると、上記のような特徴が出ているのは、多少でも事業効果があったことを示していると思われるが、今回は来館者数全体の母数も少なく、次回以降も継続して調査すべきと考える。

SAGA GAYA Museum実施を知った媒体については【表5】に示している。これも複数回答可であるため、合計は回答者数を超えている。【表5】によれば、4人に1人が「館に来て、初めて知った」という方々だった。池田龍雄展とは別にプレスリリースを発出したこと、同展チラシにも書き込めていなかったことなどによると考えられる。比較的多かったのが、「新聞」と「学校・職場等」だった。新聞については、開会日9月6日（火）の佐賀新聞1面下全3段広告の中に、SAGA GAYA Museum開催について書き入れたことと、9月10日（日）の佐賀新聞の古賀史生記者の記事「池田龍

雄展楽しみ方様々／美術館でにぎやかにおしゃべり 自由な雰囲気、気軽に鑑賞を」でSAGA GAYA Museumの取組を紹介していただいたことによるものと考えられる。また、学校・職場等については、県庁職員ポータルサイト内の掲示板掲載、県民協働課・社会福祉法人はるに

【表2】回答者の住所

佐賀市	22人	41.5%	
佐賀県内（佐賀市以外）	15人	28.3%	唐津市1人、伊万里市2人、武雄市1人、小城市4人、神埼市2人、東松浦郡玄海町1人、西松浦郡有田町3人、杵島郡江北町1人
九州内（佐賀県以外）	12人	22.6%	福岡市3人、北九州市1人、大川市1人、みやま市2人、大牟田市1人、筑後市2人、筑紫野市2人
九州以外	4人	7.5%	大阪府豊中市1人、千葉県柏市1人、栃木県佐野市2人
（計）	53人		

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館
〒840-0041 佐賀市内1丁目15-23 TEL. 0952-24-3947 FAX. 0952-25-7006

SAGA GAYA Museum (サガ・ガヤ・ミュージアム) アンケート

SAGA GAYA Museum(サガ・ガヤ・ミュージアム)
話したり、笑ったり、思わず声をあげたりしながら、自由な雰囲気の中で、芸術作品を楽しむ時間

- 1 お住まい（ 市・町 ）
- 2 年 齢
 80歳以上 70歳代 60歳代 50歳代 40歳代 30歳代
 20歳代 10歳代(中学校卒業後) 中学生 小学生 小学校入学前
- 3 御来場いただいた日時を教えてください。
 9月15日(金)18:00～20:00 9月16日(土)9:30～12:00
 9月17日(日)15:00～18:00 9月19日(火)13:00～17:00
- 4 今日は何人で御来場になられましたか？（ 人）
- 5 「SAGA GAYA Museum」の開催をお知りになったものは何ですか？
 館に来て、今日初めて知った テレビ ラジオ 新聞
 当館ホームページ 当館SNS 佐賀県庁ホームページ
 その他インターネット上 チラシ 館内掲示物 博・美メール(館配信メール)
 学校・職場等 知人・友人・家族等 その他()
- 6 「SAGA GAYA Museum」の趣旨を、どう感じられましたか？
 よい まあまあよい どちらともいえない あまりよくない よくない
- 7 「SAGA GAYA Museum」の時間帯の設定はどうでしたか？
 よい まあまあよい どちらともいえない あまりよくない よくない
- 8 「SAGA GAYA Museum」に入場されて、どうでしたか？
 よかった まあまあよかった どちらともいえない あまりよくなかった
 よくなかった
- 9 「SAGA GAYA Museum」は、今回試行的に初めて取り組んだものです。今後活かしていきたいと思しますので、どうぞ御意見・御感想などを御記入ください。

アンケートの御協力ありがとうございました。

【資料12】アンケート用紙

よる情報拡散、マルツナガル瀬戸口庸子氏によるチラシ配布やSEI-NETでの送信の効果が表れていると考えられる。

今回は、発案の時期が池田龍雄展直前となったため、広報が新聞と口コミ、館メール配信など限定的となったため、今後はあらかじめチラ

シ等)に書き入れるなど、早い段階から特別展広報の一環として取り組む必要があるだろう。

4 来場者からの声

【資料12】のアンケートの6～9番の問いで来場者からのSAGA GAYA Museumに対する評価や御意見・御感想を尋ねた。

【表6】でSAGA GAYA Museumの趣旨、時間設定、利用した感想をまとめた。

今回のSAGA GAYA Museumの内容から考えると、「どちらともいえない」と回答した人は、事業に肯定的・好意的な感想を持っているわけではないと判断できるので、否定的な回答として分析する。

とすると、趣旨に肯定的な「よい」「まあまあよい」は併せて44人で84.6%、否定的な「どちらともいえない」「あまりよくない」「よくない」は8人で15.4%となった。

また、時間帯の設定については、「よい」「まあまあよい」は41人で77.4%、「どちらともいえない」は12人で22.6%となった。

利用した感想は、「よかった」「まあまあよかった」は42人で84%、「どちらともいえない」「あまりよくなかった」「よくなかった」は8人で16%となった。

数値を見ると、時間帯については多少の工夫が必要と感じられる。趣旨や感想については、84～85%の方々は肯定的・好意的だが、15～16%の方々は肯定的・好意的ではないということである。純粋に芸術鑑賞を楽しみたいと考えて来場された方々にとっては、SAGA GAYA Museumの趣旨は理解できていても、自身が来場したその時間を楽しむという意味では、鑑賞環境としては十分ではないと思われたのかと考える。

同様の内容は、具体的に【資料12】問9の御意見・御感想の自由記載欄(【表7】)でも確認

【表3】アンケートで把握できる観覧者の年齢

80歳以上	3人	5.2%	3.4%
70歳代	3人	5.2%	12.0%
60歳代	12人	20.7%	18.2%
50歳代	13人	22.4%	19.1%
40歳代	5人	8.6%	9.4%
30歳代	6人	10.3%	10.0%
20歳代	10人	17.2%	12.3%
10歳代(中学校卒業後)	—	—	10歳代
中学生	2人	3.4%	12.0%
小学生	3人	5.2%	10歳未満
小学校入学前	1人	1.7%	2.8%
(計)	58人		

※最右欄は、池田龍雄展全体のアンケートより。

【表4】来場した際の人数

1人	16人
2人	23人
3人	8人
4人	4人
(計)	51人

【表5】SAGA GAYA Museum開催を知った媒体

館に来て、今日初めて知った	14人	25.0%
テレビ	3人	5.4%
ラジオ	—	—
新聞	7人	12.5%
館ホームページ	3人	5.4%
館SNS	1人	1.8%
佐賀県庁ホームページ	—	—
その他インターネット上	4人	7.1%
チラシ	3人	5.4%
館内掲示物	4人	7.1%
博・美メール(館配信メール)	2人	3.6%
学校・職場等	7人	12.5%
知人・友人・家族等	5人	8.9%
その他	3人	5.4%
(計)	56人	

できる。「障害のある妹と一緒に来ました。このような機会があると美術館に行ってみようと思います」、「騒がしくてすみません。でも気にせず観れてありがたかったです」、「小さい子どもと絵についてどう感じたか感想を話しながら鑑賞できて、楽しい時間になった。気がねなく来やすい、とてもよい取り組みだと思う」、「子どもを連れてきましたが、普段なかなか一緒に

【表6】SAGA GAYA Museumについてどう思うか

	よ い	まあまあよい	どちらともいえない	あまりよくない	よくない	(計)
趣旨	33人	11人	7人	1人	—	52人
	63.5%	21.2%	13.5%	1.9%	—	
時間帯の 設定	29人	12人	12人	—	—	53人
	54.7%	22.6%	22.6%	—	—	
	よかった	まあまあよかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	よくなかった	(計)
利用した 感想	34人	8人	6人	2人	—	50人
	68.0%	16.0%	12.0%	4.0%	—	

【表7】SAGA GAYA Museumに対する御意見・御感想

- 障害のある妹と一緒に来ました。このような機会があると美術館に行ってみようと思います。ありがとうございます。妹の言葉です→「いろんな絵を見れてよかった。」
- 騒がしくてすみません。でも気にせず観れてありがたかったです。
- 来場した時間は人が多くなく、GAYA Museumという感じがありませんでしたが、とても楽しい取組だと思えます。20時まであいていると仕事おわりに来られてとても良いので、1展示会のうち1回以上あるとうれしいです。すてきな展覧会をありがとうございます！
- 子どもと親で自然と会話しながら鑑賞する様子にも心いやされるような気持ちでした。今後の発展を期待しております。
- いろんたびじゅつひんをみて「すごいなあ」って思ったり、「この絵はなんだろう」って考えたりできて楽しかったです。
- 小さい子どもと絵についてどう感じたか感想を話しながら鑑賞できて、楽しい時間になった。気がねなく来やすい、とてもよい取り組みだと思う。
- こどもを連れてきましたが、普段なかなか一緒に美術館に行けないのでとてもよかったです。継続して実施してほしいです。
- 子供連れに優しい取り組みだと思いました。
- 日本の美術館に対するイメージを変えるためにも、もっとこういったイベントを行うべきだと思います。沢山のの人に美術を身近にふれあって、現代の日本の美術に対する向き合い方が変わることを願います。がんばってください。
- 今後もぜひ続けてほしいと思います。色んな人が芸術鑑賞を楽しめる工夫がすごくよい取組だと思います。
- 時間帯を長めにする日程もあれば良いと思います。
- 静かなフレイクがあるので、そこを積極的にこわそうとする人は少ないのかなと感じた。
- 次はノーマルで。
- 静かに観たい。
- SAGA GAYA ～が試行中と知らずに入場したため、学芸員の方の話にガヤガヤワイワイ反応しているお客さんの声がマナー違反では？と感じた。入場前に来場者へ周知を徹底してほしい。
- 一人でゆっくり、じっくりと見たい派なので、ターゲットとなる客層には良いかもしれませんが、自分には合わないと感じました。時間をずらせば良いだけなので、どちらとも言えないです。

美術館に行けないのでとてもよかった」などのコメントは、まさに今回ターゲットにした障がいのある方とその介助者・同行者、子ども連れの親御さんなどのものと考えられ、SAGA GAYA Museumの取組が一定の評価を得たことがわかった。

一方で、「次はノーマルで」、「静かに観たい」、「マナー違反では?と感じた。入場前に来場者へ周知を徹底してほしい」、「ターゲットとなる客層には良いかもしれませんが、自分には合わないと感じました」などのコメントは、芸術鑑賞の際に没入感を得ることができなかった来場者の率直な感想だと考える。これらのコメントをいただいた方にも、事業の趣旨を理解していただくとともに、SAGA GAYA Museumを前向きに楽しんでいただける手法を考えていく必要があると考える。

さらに、「時間帯を長めに取る日程もあれば良い」という提案もあった。今後の取組に生かしていきたい。

また、「静かなフンイキがあるので、そこを積極的にこわそうとする人は少ないのかな」というコメントがあった。これは、SAGA GAYA Museumの趣旨に対する率直な疑問であるが、今回の池田龍雄展がそもそも来場者が少なかったこともあり、静寂を「積極的にこわそう」という取組として来場者に映ってしまったものと考えられる。来場者がある程度ある場合は、声は出さなくても、足音や衣擦れ、吐息など、何がしかの音がするものである。展覧会の基本的な環境にもよるが、この御意見は鋭い指摘であり、BGMの活用と合わせて、今後の取組の際に押さえておくべきポイントかと思う。

むすびに

令和5年9月の池田龍雄展の際に初めて実施したSAGA GAYA Museumの取組について、きつ

かけや検討・準備の経過、実施状況、来場者からの声などについて詳述した。

他県でよく見られる休館日の臨時開館イベントとしての「障がい者のための特別鑑賞会」ではなく、今回、SAGA GAYA Museumで試行的に行ったのは、土曜日・日曜日の通常開館時間中、夜間の開館時間延長、休館日の臨時開館などに、どなたでも入場可能な「特別な鑑賞時間」という枠を設けるものである。

都市部では、障がいのある方に絞った形での特別鑑賞会であっても多くの来場者を見込めるが、地方に所在する佐賀県立美術館では、同様の形では需要は決して多くない。また、子ども連れの親御さんなど美術館来館に障壁を感じておられる方々に気兼ねなく芸術を楽しんでいただける機会をできるだけ多く創り出したいとの思いもあった。

第4章で確認した来場者からの声にもあるとおり、障がいのある方やその介助者・同行者はもちろん、子ども連れの親御さんからの好評価は、本館の今回の取組の方向性が間違っていないことを示しているものと考えられる。

【表7】の御意見・御感想の中に「20時まであいていると仕事おわりに来られてとても良い」という感想があったが、これは本館が当初想定していたターゲットではなく、昼間仕事で来られない方が「土曜日や日曜日ではなく平日夕方の時間に鑑賞できればありがたい」と考える方々がいるということを示している。このような意見は、周囲の方々の「冷たい視線」により美術館来館に障壁を感じておられる方々ではなく、「もし時間を有効に使えるならば、美術館に行ってみてもいいかなあ」といった方々であり、このような層をフォローすることによって、より幅広い方々に芸術を楽しんでいただけるものとなるため、積極的にリーチするよう検討すべきかと考えている。

また、この平日夜の開館時間延長については、アンケートには反映されてはいないが、3(3)で紹介した「ベビーカーで赤ちゃんを連れて来られた女性の方」が20時近くまで熱心に御覧いただいたことを考えると、今回のターゲット層である子ども連れの親御さんの利用時間の1つと考えるべきだろう。

なお、2(2)の意見の中にあったBGMの試行については、音楽著作権処理等の手続きも必要で、今回は実施できなかった。次回以降の課題としたい。

今回の取組では、前述のとおりSAGA GAYA Museumの取組のターゲットを「障がいのある方とその介助者・同行者、子ども連れの親御さんなど美術館来館に障壁を感じている方々」として取り組んできた。総論的には肯定的・好意的な考え方が多かったが、自らの芸術鑑賞の際に没入感が得られなかった方々にとっては、不満足な印象を与えてしまうものであったのかもしれない。とはいえ、日頃美術館来館に障壁を感じておられる方々にとっては、第4章で述べたとおり極めて意義のある取組であることも確認された。

ところで、「特別な鑑賞時間」の設定とともに、「すべての方々を歓迎し、お客様の状況に応じて必要な場合は個別にアテンドする」考え方も併せて持つておくべきであることも、2(1)エで述べた。一見して相反する方向性のようだが、後者は、「特別な鑑賞時間」以外の通常のあり方である。観覧者の状態に合わせて個別におもてなしをする精神は、博物館・美術館スタッフには必須のことであり、改めて館職員に対して様々な場面で繰り返し呼びかけていくことが必要であると感じている。

私たち公立美術館に勤務する者にとって、芸術を深く味わうコアな美術ファンの存在は、心強くもあり、大切にしていかなければならない

ことは当然である。しかし一方で、そのようなコアな美術ファンは最初からコアだったわけではなく、芸術にのめり込んだ「きっかけ」があった筈である。公立美術館は、そのような「きっかけ」に出会う場でもあり、より幅広い方々に芸術を楽しんでいただけるよう努めていかなければならないという使命が前提としてあると考える。今回のSAGA GAYA Museumの取組は、芸術を楽しんでいただける層を広げるものであるが、別の観点からみると、静かにしないでよい鑑賞スタイルを通して芸術をより欲している方々に楽しんでいただける機会でもあったと改めて感じた。

まずは、続けることによって取組の社会的認知度を高め、多くの利用者と理解者の創出に努めていきたいと考えている。目指すべきは、美術館など芸術鑑賞を目的とした施設においても、「お年寄りや障がいのある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支えあって心地よく過ごせる」という「さがすたいる」の理念に一步でも近づくことであり、トライ・アンド・エラーを重ねてブラッシュアップさせていければと思う。

本稿はSAGA GAYA Museumについての長蛇な記録となったが、形だけではなく、取組に込めた考え方や思いが館活動の中に少しでも伝えられていければと思い執筆したものである。

【註】

- (1) 障がいがある方のための特別鑑賞会の取組は、東京都美術館、国立新美術館、東京国立博物館、九州国立博物館など多くの博物館等の施設で、様々な運営形態で開催されている。
- (2) 御意見は令和5年(2023年)6月8日にいただき、館内・庁内で検討のうえ、6月21日に次のとおり回答した。

博物館・美術館の利用についての御意見をありがとうございました。

現在、佐賀県では、お年寄りや障がいのある方、

子育て中の方など誰もが安心して暮らしていける、みんなにやさしいまちづくりの実現を目指す「さがすたいる」に取り組んでいます。

当館でも、すべてのお客様に「本当に美しいもの、素晴らしいもの」を御覧いただき、楽しんでいただけるよう努めております。

〇〇様の御心配は、お子様が興奮された時に、他のお客様の迷惑になるのではないかとということかと思えます。

ご提案いただきました障がいのある方が利用しやすい時間を設ける案ですが、県としては障がいのある方々がその他の時間帯に利用しづらくなるのではないかと心配をしております。

そのため、当館といたしましては、観覧に御心配を感じられる場合などは、個別に対応しております。事前に御相談いただければ、お付き添いの方に加えて職員がアテンドして御観覧いただくなど、個別のおもてなしをさせていただきたいと思えます。

いつでも、すべての方々に、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めておりますので、ぜひ御来館いただきますようお願いいたします。

なお、当館は、基本的には入館無料で、一部の展示に観覧料が設けられておりますが、有料展示でも、県主催のものについては、高校生以下、障害者手帳又は指定難病医療受給者証をお持ちの方と介助者1名は無料で御観覧いただけますので、ぜひ御利用ください。

- (3) 昭和42年(1967年)に佐賀県西松浦郡西有田町(現有田町)の「坂の下遺跡」(縄文時代後期)でアラカシの実が多数出土し、翌43年7月に発芽した。発芽したアラカシは佐賀大学農学部や佐賀県林業試験場(現佐賀県林業試験研究センター)で鉢植えのまま育てられ、同45年に県立博物館に移されて、同50年に県立博物館東側の屋外展示場に移植された。以後、博物館東側の屋外展示場を「アラカシ広場」と通称している。

詳細は、『坂の下遺跡の研究—佐賀県立博物館調査研究書第2集』(森醇一朗著/佐賀県立博物館発行・昭和50年3月)の146~147頁「アラカシの発芽」参照。

- (4) 「あらかしコンサート」は、平成18年(2006年)から年3回程度開催しているコンサートで、SAGA GAYA Museumの実施日であった令和5年9月16日

には第52回あらかしコンサートとして、「ないた赤おに」ミュージカル(劇団ショーマンシップ)を公演した。回を重ねるにしたがって多様な舞台芸術を御覧いただくこととなり、近年では屋外だけでなく、美術館ホールを会場にすることも多い。

- (5) ここで敢えて「冷たい視線」という言葉を使用しているのは、決して来館者・利用者を批判する意味からではない。芸術鑑賞は、その芸術の世界に浸り、真髄を味わうことに醍醐味があるわけで、鑑賞中にそれとは関係のない音や動きを感じたときは、恐らく殆どの方々は反射的に「醒めた表情」(芸術への酔いから醒めた表情)を浮かべる。筆者自身も同様の反応をするだろうことは言うまでもない。人間という動物の自然な反応であると考ええる。一方で、障がいのある方や子ども連れの親御さんなど、音や動きを抑えることが困難な方々にとっては、周囲の方々のこの「醒めた表情」に敏感になっているわけで、そういったことから「冷たい視線」という言葉を使用している。「醒めた表情」やその後の行動は、鑑賞者の求める鑑賞環境の初期設定によって違ってくると考えられるので、本稿では、敢えて「冷たい視線」という言葉を使用した。

【附記】

SAGA GAYA Museumの検討・準備・実施及び本稿執筆にあたり、株式会社東馬代表取締役社長東島眞介様・SeAGA事業部生島到様、医療法人清明会 障害福祉サービス事業所 PICFA(ピクファ)施設長原田啓之様、社会福祉法人はる理事長福島龍三郎様、マルツナガル瀬戸口庸子様、佐賀県県民協働課副課長諸江哲智氏・主任主査山田由美氏、同文化課係長安永浩氏、佐賀県立博物館・佐賀県立美術館統括副館長坂田智宏氏ほか、多くの方々に御協力・御助言をいただいた。期して深謝申し上げます。

(うらかわ・かずや/佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 副館長)